

令和3年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（小学校）

令和3年11月9日
庁議資料

調査実施日 令和3年4月12日（月） 実施

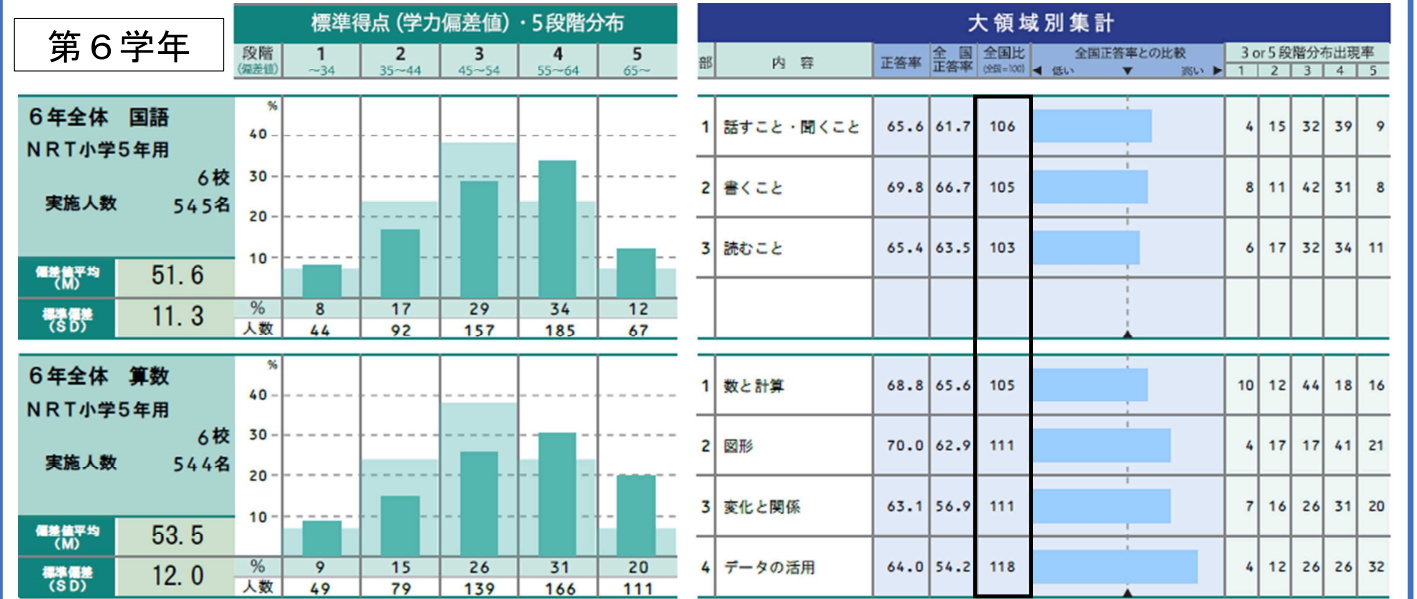
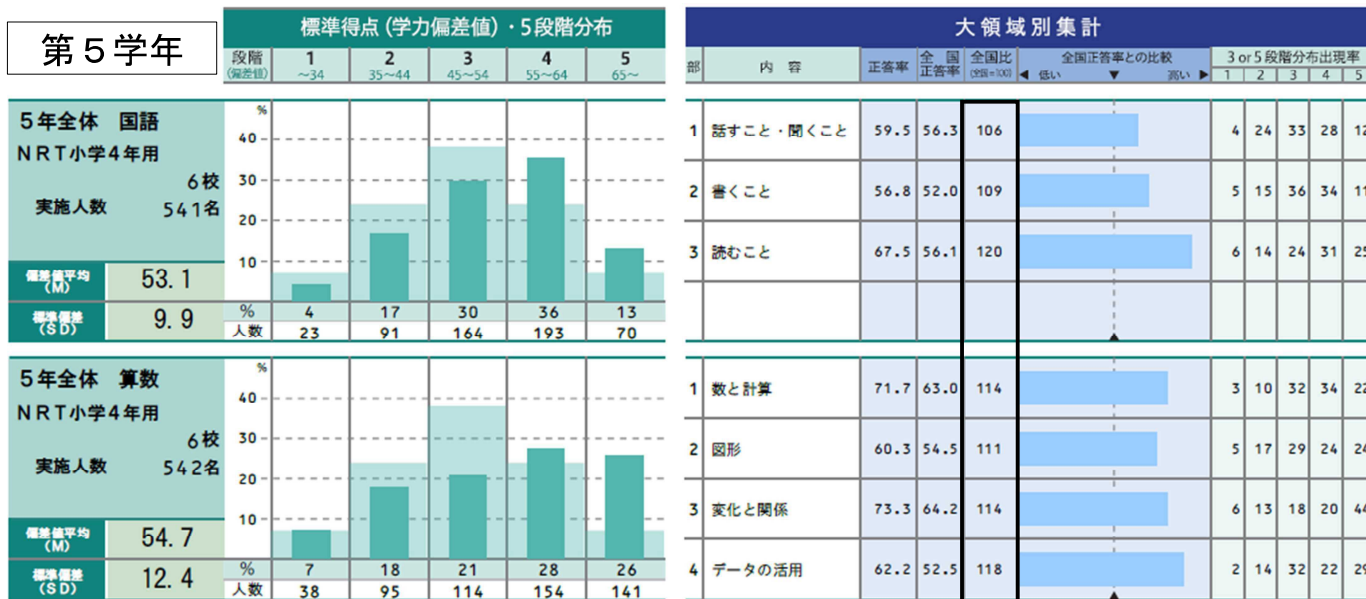
調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第5学年	国語、算数	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	542人
	第6学年	国語、算数		545人

- 調査の目的
- ◇ 児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握・分析する。
 - ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

「狛江市学習状況調査」(標準得点・5段階分布と大領域別集計)※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合

「狛江市学習状況調査」(標準得点・5段階分布と大領域別集計)※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合



国語では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 49% を占めており有意に高かった。全ての領域が全国より高かったが、特に「読むこと」の領域では全国比で 20% 高くなっている。

国語では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 46% を占めており有意に高かった。偏差値が 34 以下の割合が全体の 8% となっており、全国より約 1% 高くなっている。

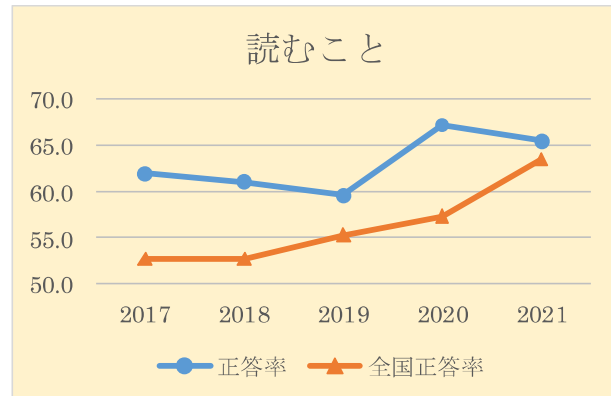
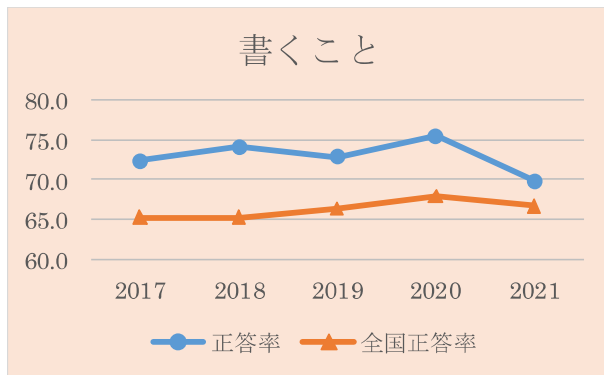
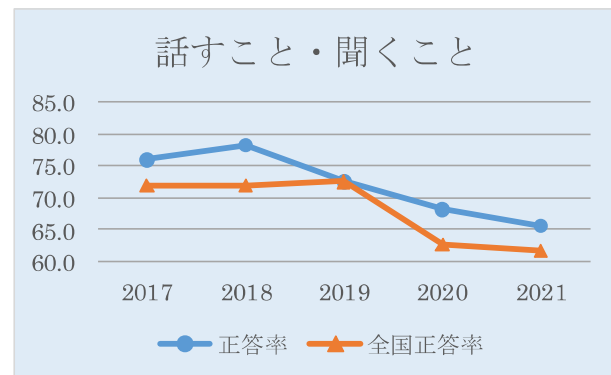
算数では、学力偏差値 65 以上の段階 5 の割合が全体の 26%、また学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 54% を占めており有意に高くなっている。全ての領域で全国比で約 10% 以上高かったが、特に「データの活用」の領域は全国比で 18% も高くなっている。

算数では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 51% を占めており有意に高かった。偏差値が 34 以下の割合が全体の 9% となっており、全国より約 1% 高かった。領域で見ると「データの活用」が全国比で 18% も高くなっている。

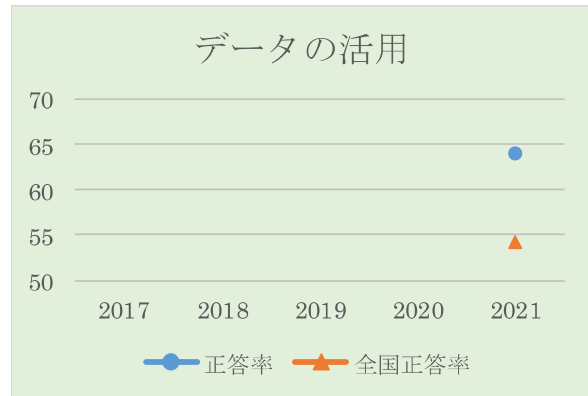
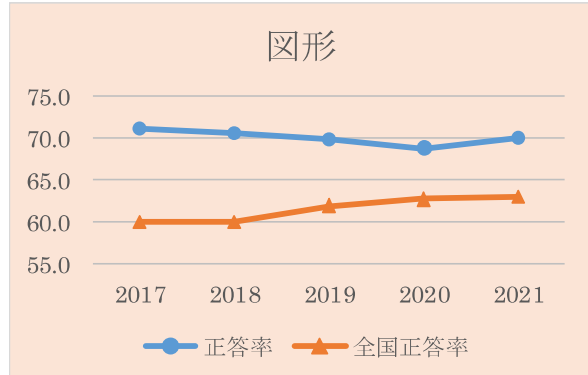
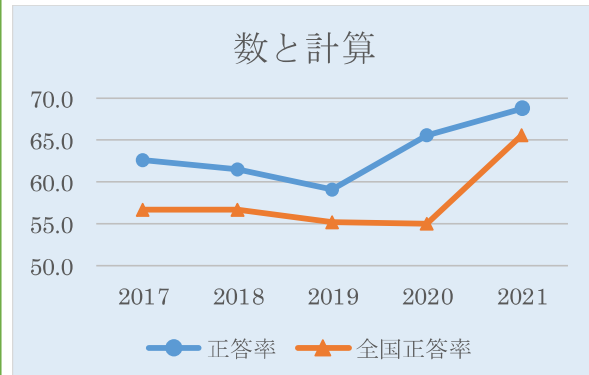
6年生になると国語、算数共に上位層と下位層が増加しており、二極化が現れ始めていると読み取ることができた。

第6学年 大領域別集計の推移 国語

第6学年 大領域別集計の推移 算数



今年から、「伝統的な言語と文化と国語の特質」の領域がなくなり、3つの大領域となった。
領域別では、全国正答率と比較すると、全ての領域で全国正答率を上回っているが、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」については、経年の変化としては下降傾向となっている。
一方「読むこと」については、昨年度より正答率が約2%低くなったが、経年の変化としては上昇傾向となっている。



昨年は「量と測定」「数量関係」の領域があったが、今年は「変化と関係」「データの活用」の領域に変更となった。
「数と計算」は、昨年より約3%高くなったが、全国正答率は約10%上昇した。その結果、全国正答率との差は約3%となったが、上昇傾向の推移となっている。「図形」は昨年とほぼ同様に推移している。今年から新たな領域となった「変化と関係」は全国正答率より約6%、「データの活用」は、全国正答率より約10%高くなっており狛江の正答率は全国と比較し、有意に高い結果となっている。

令和3年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（中学校）

令和3年11月9日
庁議資料

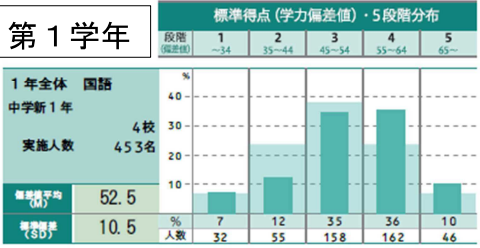
調査実施日 令和3年4月12日（月） 実施

調査対象、実施教科等

- 調査の目的
- ◇ 生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握・分析する。
 - ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数	
中学校	第1学年	国語、数学、英語	前学年までに履修した内容	45分間、配布と回収を含め1単位時間（50分）を充てる。	453人
	第2学年	国語、数学、英語			437人
	第3学年	国語、数学、英語			398人

「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合



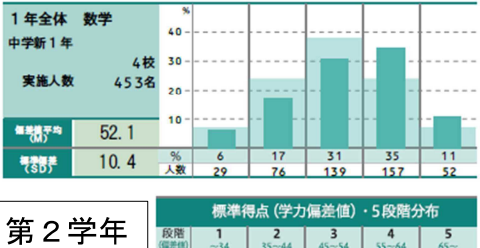
大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	64.2	61.4	105	1 12 45 40 1
2	書くこと	62.7	60.5	104	6 21 33 36 4
3	読むこと	67.2	60.0	112	2 12 35 36 15

国語では、学力偏差値 55 以上の段階 4 以上の割合が全体の 46% を占めた。特に「読むこと」の領域では全国比で 12% 高くなっている。

数学では、学力偏差値 55 以上の段階 4 以上の割合が全体の 46% を占めた。特に「データの活用」の領域では全国比で 10% 高くなっている。

また、国語、数学のいずれの教科でも学力偏差値 44 以下の割合が全体の約 2 割程度を占めている。



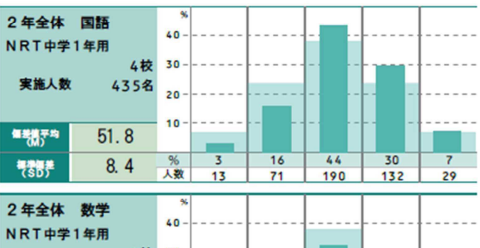
大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	数と式	67.3	65.3	103	5 17 25 37 16
2	図形	56.9	53.3	107	4 15 41 29 12
3	関数	64.0	58.6	109	7 16 27 34 15
4	データの活用	63.2	57.7	110	3 13 34 41 9

国語では、学力偏差値 45 以上 54 以下の段階 3 の割合が全体の 44% を占めており、全体の約半数が段階 3 であった。「話すこと・聞くこと」の領域では全国比で 10% 高くなっている。

数学では、学力偏差値 65 以上の段階 5 の割合が全体の 15% を占めた。特に「図形」の領域では、全国比で 13% 高くなっている。

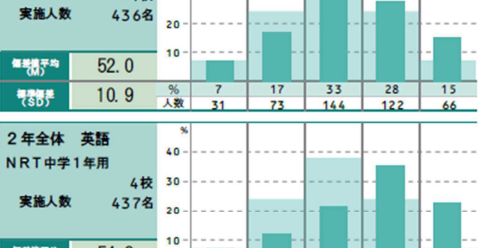
英語では、学力偏差値 65 の段階 5 が全体の 23%、学力偏差値 55 の段階 4 以上と合わせると全体の 59% を占めており有意に高かった。特に、「書くこと」の領域では、全国比で 21% も高くなっている。



大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	75.9	69.3	110	4 11 25 29 31
2	書くこと	63.0	60.8	104	9 14 41 29 8
3	読むこと	44.4	41.5	107	5 15 51 18 10
4	伝統的な言語文化と国語の特質	47.3	44.5	106	3 10 58 20 9

英語では、学力偏差値 65 の段階 5 が全体の 23%、学力偏差値 55 の段階 4 以上と合わせると全体の 59% を占めており有意に高かった。特に、「書くこと」の領域では、全国比で 21% も高くなっている。



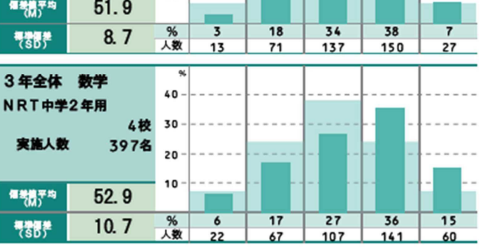
大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	数と式	57.2	51.9	110	9 12 26 35 17
2	図形	56.5	50.0	113	4 17 40 29 10
3	関数	47.9	46.7	103	9 28 33 17 12
4	資料の活用	55.6	53.1	105	9 14 26 36 16



大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	聞くこと	83.8	76.8	109	2 6 24 35 32
2	話すこと	66.5	59.4	112	5 13 32 32 18
3	読むこと	58.0	54.7	106	3 10 45 31 11
4	書くこと	58.5	48.3	121	7 16 22 31 24



大領域別集計

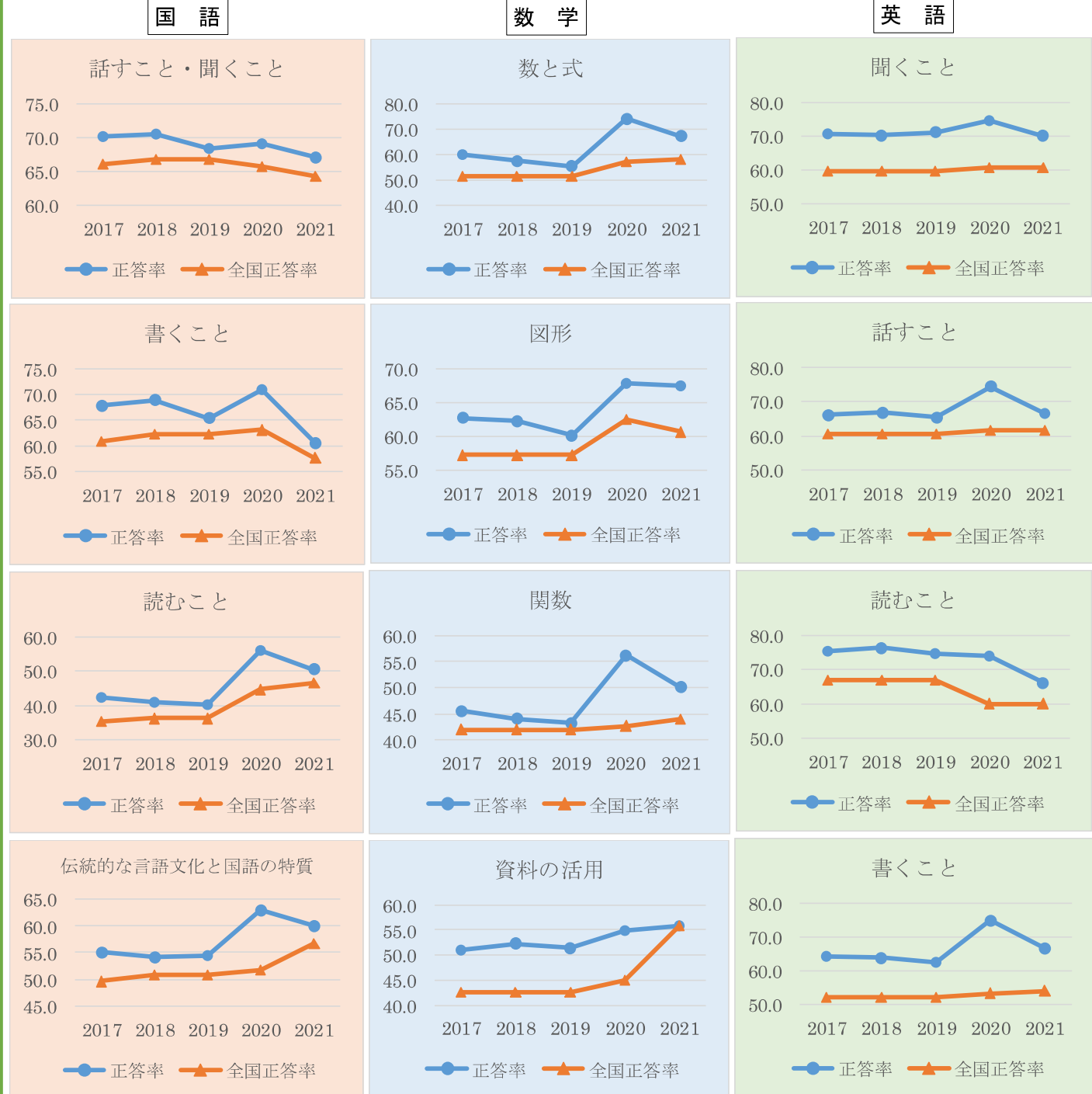
部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	67.1	64.3	104	3 11 33 45 9
2	書くこと	60.6	57.7	105	5 17 32 38 9
3	読むこと	50.5	46.4	109	5 12 54 28 3
4	伝統的な言語文化と国語の特質	60.0	56.7	106	4 20 43 23 10

国語では、学力偏差値 55 以上 64 以下の段階 4 の割合が 38% で、段階 5 と合わせると全体の 45% となり、有意に高かった。

数学では、学力偏差値 55 以上 64 以下の段階 4 の割合が 36% で、段階 5 と合わせると全体の 51% となり、有意に高かった。特に「数と式」「関数」の領域が全国比で約 15% 高くなっている。

英語では、学力偏差値 65 以上の段階 5 の割合が全体の 23%、学力偏差値 55 以上の段階 4 と合わせると全体の 54% を占めており有意に高かった。特に「書くこと」の領域では、全国比で 23% 「聞くこと」の領域では、全国比で 16% 高くなっている。

第3学年 大領域別集計推移



国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、全国正答率を上回っているが、経年で比較すると下降傾向となっている。一方「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」については、昨年度より正答率は低くなっているが、経年の変化としては上昇傾向となっている。

数学の「数と式」「関数」では昨年度より正答率が下がった、または同程度であったものの、経年の変化としては上昇傾向となっている。「関数」については、一昨年度までの結果を受け、各校での授業改善を重点的に行った結果、昨年度と今年度の正答率の全国正答率との差が有意に広がってきている。

英語の「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の領域では昨年度より下がってはいるが、経年の変化としては、ほぼ同様の推移となっている。一方、「読むこと」の領域では昨年度から約7%下がっており、経年の変化としても下降傾向となっている。全体をとおして全国正答率の推移と同じような傾向を示すが、全ての領域において全国正答率より高くなっている。